

## 《第 51 号》「究極のごみ減量をめざして」

小長谷 忠春(文京区立湯島小学校)

リサイクルが社会に浸透している今日でも、環境教育に取り組んでいる小学校で大量のごみが、ごみとして出されています。学校のごみは、紙と落ち葉と生ごみです。生ごみ処理機が設置されていない学校では、給食の生ごみが出ます。教室と職員室からは、ほとんどが紙ごみで、容器包装のビニールが少し出ます。その他は、落ち葉、雑草、剪定枝、枯れた植物などです。どこの学校でも紙リサイクルに取り組んでいるのに、大量の紙ごみが出ます。リサイクルされているのは、冊子類、プリント、雑誌、本、ダンボールです。これだけでもかなりの量になりますから、リサイクルに取り組んでいますとなります。それでもなぜ大量の紙ごみなのか。

それは、切り刻んだ紙、模造紙に張り付けた紙、工作した紙などが多いからです。セロテープやガムテープが使用されており、そのままでは、ごみです。七夕のように、折り紙などが笹についています。書初めや展覧会などイベントの時は、大量の紙ごみになります。しかし、セロテープやガムテープをはがし、色画用紙のように脱色できないものを分別し、金銀の折り紙や写真などリサイクルできないモノを取り除けば、ほとんどがリサイクル可能なのです。教室や職員室から出る紙ごみの 90%は、リサイクル可能です。

ゴミの処理と考えたら、作業は、めんどろです。しかし、小学生でもできる資源の発掘と考えたら簡単です。求められるのは、意識の転換です。

同時に落ち葉、雑草、剪定枝などを、すべてごみに出さず堆肥化すれば、ごみはゼロに近づきます。落ち葉の堆肥化は、それなりの手間がかかります。落ち葉を集め、堆肥容器に積み込み、切り返しの作業があります。しかし、そのコツを学べば簡単なことです。この取り組みは、設備と人手が求められます。大変なように思われますが、こんなに大量のごみが減量可能になる方法はありません。落ち葉はどこにでもあり、そのほとんどがごみになっています。あらゆる施設で、この取り組みが実施されれば、ごみ減量は、一気に進みます。

湯島小学校では、児童、教職員の紙リサイクルへの取り組みが活発になってきました。来年度、さらにレベルアップして「究極のごみ減量」にチャレンジします。放射能問題で中断している落ち葉の堆肥化を再開し、湯島小の給食を除く可燃ごみを限りなくゼロに近づけるために努力したいと考えています。

以上